

福岡未来創造プラットフォーム 令和 6 年度(2024 年度)事業報告書(学生募集作業部会)

【ビジョン】

大学・自治体・産業界とのリソースの共有にもとづく高等教育及び地域の活性化の推進

- 若者が集積し、成長し、活躍する活気と魅力あるまちづくりの推進
- 多様な人びとが豊かな学びを通して活躍できるダイバーシティ社会の推進
- 大学・自治体・産業界の垣根を越えた知的・人的交流の促進と高等教育機能の向上

【令和 6 年度(2024 年度)までの達成目標】

- 福岡市の発展を支える 17 以上の先進的な教育・人材育成プログラムを共同で開発
(受講者数:延べ 1,820 人)
- 福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率 3%ポイント増加(2018 年度比)
(2019 年 3 月:26.8% → 2025 年 3 月:27.3%)

評価値	目標以上の成果を上げることができた	S
	目標を達成できた	A
	改善は必要だが、おおよその目標は達成した	B
	目標を達成できず、計画の見直しが必要	C

【令和 6 年度までの達成状況】

- 先進的な教育・人材育成プログラムの共同開発件数:6 件、受講者数:延べ 1,004 人(累計 共同開発件数:31 件、受講者数延べ 3,667 人)※別紙参照
- 福岡市内の大学卒業者の市内企業就職率(2025 年 3 月卒)⇒27.3%

学生募集作業部会							
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況【事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学の情報・魅力を九州内外の高等学校・生徒・保護者等に効果的に発信し、各大学の認知度向上を支援するとともに、「大学のまち福岡」で学ぶこと・暮らすことのブランド力を高めていくことによりエリア全体の学生募集力の強化を図る。	○ 参画大学の入学志願者数の増加率 2 ポイント増加 (2018 年度比)	参画大学の入学志願者数の増加率 4.5 ポイント減少(2018 年度比)			• 事業(1)(2)に記載のとおり、課題は残ったものの、福岡都市圏の大学の情報・魅力を九州内外に発信し、各大学の認知度向上を支援するとともに、「大学のまち福岡」で学ぶこと・暮らすことのブランド力を高めるための取組を実践しながら、実証実験として、一定の知見は得られたと考える。 • 一方で、当該事業や取組については、入学志願者数の増加につながる一要因でしかなく、他の要因によって、大きく値が変化するため、目標自体を見直す必要がある。	【評価値】 C 【理由】 中期計画に対しては、未達のため。 左記のとおり、目標自体を見直す必要があり、実質的に評価は不可と考える。

(1) 学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開	学生募集の新しい方策や手法の開拓を目的に、福岡都市圏の大学の情報・魅力の効果的・効率的な発信や新たな募集地域の開拓等に資する調査・実証実験事業を企画・実施・検証し、さらなる事業展開や仕組づくりを活用する。	○ 調査・実証実験事業の実施件数 4 件以上	○ 調査・実証実験事業の実施件数 累計 6 件 ・進学相談会参加(沖縄) ・高校訪問(沖縄) ・合同説明会(オンライン) ・PR イベント開催 ・パンフレット制作、配布 ・進学相談会参加(福岡市の PR)	①大学のまち福岡パンフレット配布 配布数:150 校 アンケート回収数 :1,000 件 ②進学相談会へのブース 出展(目標設定無し)	①141 校 約 9,000 を配布。アンケート回答数 510 件 ②5 都市開催 ブース来談者数合計 57 名	【学生募集力の強化に向けた調査・実証実験事業の展開事業】 学生募集に係る広報について、複数の手法、媒体、形態、素材などを試行することができた。 2019 年度 ・福岡都市圏のまちと大学の魅力を紹介するパンフレットの企画・作成に 9 月から着手。3 月完成予定。九州産業大学芸術学部ビジュアルデザイン学科の田中准教授のゼミ生が学生の視点から制作。 ・沖縄での高校生への広報活動(大学ネットから継続)。7 月那覇市で開催された福岡県内の大学参加の個別説明会に PF としてブース出展 ・9 月学生同行による高校生への PR (県立向陽高校 89 人、県立開邦高校 11 人)、沖縄県教育委員会との情報交換 ・11 月学生同行による高校生・保護者への PR (県立首里高校(高校生 35 人)、県立向陽高校(保護者 104 人)) 2020 年度 ・高校生向けウェブサイトの充実を図り、以下情報を掲載。 オープンキャンパス、学園祭情報、新型コロナウイルスへの学生支援策情報、福岡市の PR 動画掲載、ふくおかカモン等 ・「福岡 12 大学オンライン合同進学説明会」を開催し、参画大学の学生が学部学科毎に同じブースの中でディスカッションする形式で実施した。 2021 年度 ・「Fukurcome English Academy」を開催。英語に興味がある高校生に向けて、現役の大学の留学生が先生役となってオンライン上で英語を教える企画。福岡の大学への進学を後押しする内容として 1 組 2 名を対象に試験的に実施。 ・学生広報チーム活動報告ページを新たに作成し、福岡と大学の魅力が詰まった企画を随時発信できる体制を整えた。 ・Twitter や Instagram 等を活用し学生広報チームの企画内容を発信した。 ・紙媒体から WEB で発信する方針へ	【評価値】 C 【理由】 プラットフォームを活用した産官学連携での学生募集広報活動について、実証実験として有用性や持続性を検証することができたことは一定の成果と考えられるが、当初の計画である「学生募集力の強化」につながる事業展開や仕組みづくりができたとは言えない。
------------------------------	--	---------------------------	---	---	---	---	---

						転換し、PF 参画大学の特徴的な建物や大学の周辺施設を学生広報チームが企画・取材し、計 12 本の短編動画に編集し新たな広報媒体として • YouTube を開設して発表した。 2022 年度 • 福岡都市圏に大学進学をする魅力を訴求することを狙いにパンフレットを作成し、福岡県を除く九州・沖縄・広島・山口の計 89 高校の 2 年生に 9 大学で分担して配布した。 • パンフレット経由でアンケートを実施し、595 件の回答を得た。 2023 年度 • 福岡県(筑後地区)を含む九州各県及び山口県内で計 83 校で配布した。アンケート回答は、1,104 件の回答を得ている。 • この結果を分析し、得られた知見を福岡都市圏の大学への進学希望者数増加に向けた取り組みの参考とする。 • 進学相談会では、「大学のまち福岡」パンフレットを配布するとともに、ブースへの来場者に対し、福岡のまちの魅力や希望する学問分野の大学の紹介、大学パンフレットの配布を行った。	
--	--	--	--	--	--	---	--

(2) 大学生等を活用した広報体制の構築と広報活動の展開	高校生への情報発信にあたり、プラットフォーム参画大学の学生を中心とする広報体制を構築し活動を支援する。	○ ウェブサイトアクセス数 累計 90 万アクセス ○ 広報媒体の開発件数 3 件以上 ○ 広報活動に参加した学生数 延べ 100 人 ○ 学生広報チームの結成 2020 年度	○ ウェブサイトアクセス数 累計 128 万アクセス ○ 広報媒体の開発件数 3 件以上 ○ 広報活動に参加した学生数 延べ 93 人 ○ 学生広報チームの結成 2021 年度	○ ウェブサイトアクセス数 累計 18 万アクセス ○ 広報活動の参加学生数 30 人	● ウェブサイトアクセス数 → 19.6 万アクセス ● 広報活動に参加した学生数 → 14 人	【大学生等を活用した広報体制の構築と広報活動の展開事業】 「大学生を活用した広報体制の構築」というよりも、WEB を媒体にした学生募集広報の事業展開が中心となっており、その一部として学生を活用したという実態であった。 2019 年度 ● 広報チームへの参加募集を行うための募集概要を作成中。 2020 年度 ● 九州博報堂と連携して福岡ブランディング大学を開校し、大学の街・福岡をブランド化し、情報発信していくことに興味があり、学生広報メンバーとして活動したい学生を募集した。 ● 福岡ブランディング大学としてオープンセミナーとメンバーワークショップを各 2 回開催し、ブランドについて学んだ。各回約 30～50 名が参加。 2021 年度 ● 福岡ブランディング大学の 세미나・ワークショップを計 3 回開催し、広報に関心がある学生のスキル向上を図った。計 86 名の学生が参加。 2022 年度 ● 高校生向けウェブサイト(DAiFuk.) のトップページデザインをリニューアルするとともに、新規企画である「学生 Voice 」、「受験生応援情報」では、学生目線でふくおかの街や大学の特徴、魅力、合格体験記を発信するインタビュー記事を学生の顔写真とともに掲載した。 ● 学生広報チームの活動を支援する体制が十分に構築できていないため、福岡ブランディング大学については、実施見送り。 2023 年度 以下の内容をウェブサイトや SNS で発信。 ● Information 20 回／Instagram 25 回／X(旧 Twitter) 28 回 ● インスタグラムキャンペーン／だいふく質問箱 ● オープンキャンパスレポート／福岡未来創造プラットフォーム ● イベント開催報告	【評価値】 B 【理由】 ウェブサイトアクセスという観点では累計 128 万アクセスを達成しており、目標を大きく上回ることができた。一方で、学生を活用した広報という観点においては、一定程度の学生参加はあったものの、「学生を中心とする広報体制」を構築したとは言えない。「学生を中心とした広報体制」の有用性と必要性について今一度検討する課題も残った。
------------------------------	---	--	--	---	--	---	---

						オープンキャンパス 2023／ 学園祭 2023 • 座談会 2023 • 受験生応援情報の更新(合格体験記／ 学生 Voice) • 事業サイト更新(パンフレット差し替え、 イベントバナーの作成) • ・だいふくサイト更新 (X(旧 Twitter)看板画像の修正、大学 情報の修正)	
--	--	--	--	--	--	---	--

地域人材育成作業部会							
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇各大学の教育・研究力と自治体・産業界の教育資源の融合による新たな学生教育プログラムを開発する。産官学が連携して福岡の歴史・文化、知識創造産業の集積、スタートアップ、MICE 等について学ぶと共に課題解決型学習を通じた実践的かつ対話的な学び多様で質の高い教育プログラムを提供し、福岡都市圏の未来を担う人材の育成を目指す。 地域貢献活動ならびに多様な人びととの交流を通じた学生の主体的学びや社会人基礎力の向上を推進するためには、自治体、産業界との連携協力が不可欠である。そのために大学の垣根を越えた学びとその成果について発信し、産官学による人材育成高度化を図る。さらに 2024 年度以降、物的・財政的支援を引き出す仕組みを模索する。	○「福岡未来創造プログラム」の開発 10 科目 ○ 単位認定可能な福岡未来創造プラットフォーム連携開設に向けた事例調査 3 件 ○ 各種教育プログラム受講学生数 延べ 700 人	○「福岡未来創造プログラム」の開発 11 科目 (延べ 36 科目) ○ 単位認定可能な福岡未来創造プラットフォーム連携開設に向けた事例調査 4 件 ○ 各種教育プログラム受講学生数 延べ 1,703 人			○「福岡未来創造プログラム」の開発 11 科目(延べ 36 科目) ○ 単位認定可能な福岡未来創造プラットフォーム連携開設に向けた事例調査 ・他プラットフォーム事例 4 件 ・参画大学の科目等履修・単位互換科目 3 大学(全 159 科目) ○ 各種教育プログラム 受講学生数 延べ 1,703 人 ○ 福岡未来創造プログラムの高度化 ・育成すべき人材像と能力・要素の定義 ・カリキュラム基本方針の策定 ・プログラム企画書様式の策定 ・プログラム受講証明書様式の策定 ・共同 LMS の構築(Moodle)	【評価値】 S 【理由】 ・参画機関が協働し、各目標値を上回る実績を挙げた。 ・経年の取組実績を基盤とし、福岡未来創造プログラムの体系化と実質化に向けて、制度設計を再考し、2022 年度に部会メンバーが協働し、学生ヒアリングも経て、育成すべき人材像と能力・要素の定義を含めたカリキュラム基本方針を策定し、2023 年度から運用した ・2024 年度共同 LMS を構築した。 ・各実績をはじめとする現状を踏まえ、第二期中長期計画の策定と、その推進に必要な基盤作りに大きく貢献した。
(1)「福岡未来創造プログラム」の開発	「地域の未来創造を担う人材の育成」に資する、時代に即したオリジナル教育プログラムを開発し、1 機関では招聘できない多様な講師陣による集中講義形式で開講する。教育プログラムは座学だけでなく、課題解決型学習等を盛り込み、主体的で深い学びを目指す。なお、中長期計画策定時に想定していた教育・交流拠点形成及び活動支援制度構築については 2024 年以降の次期中長期計画に向け、福岡未来創造プログラムでの教育交流活動と一体的に取り組むこととする。	○ 開講科目数 10 科目 ○ 受講者数 延べ 700 人	○ 開講科目数 11 科目(2024 年度) 累計 36 科目 ○ 受講者数 延べ 1,703 人 2019:2 科目 131 人 2020:2 科目 91 人 2021:3 科目 212 人 2022:8 科目 321 人 2023;10 科目 533 人 2024:11 科目 412 人	○ 開講科目数 11 科目以上 ○ 受講者数 330 人以上(実数)	● 開講科目数 11 科目 ○ 受講者数 222 人(延べ 412 人)	【福岡未来創造プログラム事業(取組 1:プログラム実施)】 ・参画機関及び外部機関の協力を仰ぎ、PBL、IT、データサイエンス、グローバルキャリア、SDGs、金融、医療等の多彩なテーマを有し、最終年度は 11 科目、6 年間累計では 36 科目を開講。 ・2020 年度以降、受講者数は順調に伸び、2023 年度には過去最高の延べ 533 人が受講。 ・2024 年度以降、コロナ禍の反動により各大学における課外活動の活性化や、複数大学で 100 分授業の運用などが影響し、受講生が減少。 ・プラットフォームの創世記にコロナ禍の影響もあり、変更後の受講者目標値が過少だったことは否めないが、各目標を達成できたことを評価。	【評価値】 S 【理由】 ・2023 年度に目標の 10 科目を実現後、最終年度は目標値を上回る 11 科目となり、累計では 36 科目を開講した。 ・最終年度の単位互換科目は 2 科目、累計では 10 科目を開講した。 ・受講者数は 6 年間で延べ 1,703 人であり、当初計画の 5 年間では延べ 1,251 人として、目標値(延べ 700 人)を大きく上回った。 ・円滑なプログラムの運営見据え、2024 年度に共同 LMS(Moodle)を構築した。
(2) 福岡未来創造プログラムの連携開設へ向けた検討	福岡未来創造プラットフォーム加盟大学の効果的な資源共有及び教育機能強化の一環として、単位認定可能な福岡未来創造プログラムの連携開設へ向け、事例調査を行う。全国を対象に先進事例を調査し、福岡未来創造プラットフォームで取り組むための課題を整理する。	○ 事例調査 3 件以上	○ 事例調査 2022 年度;4 件 ○ 科目等履修・単位互換科目調査 2024 年度:3 大学(159 科目)	○ 2022 年度実施により目標達成 ○ 科目等履修・単位互換科目調査の実施	● 左記同上 ● 3 大学より 159 科目の回答	【福岡未来創造プログラム事業(取組 2:プログラム実質化)】 ・事例調査 4 件として「コンソーシアムとくしま」、「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」、「めぶく。プラットフォーム前橋」、「大学コンソーシアム大阪」を調査後、部会内で情報共有し、第 2 期中長期計画の参考とした。 ・福岡未来創造プログラムにおいて、単位認定が可能な科目のさらなる拡大に向けて、既に開講実績のある科目等履修・単位互換科目調査を実施し、3 大学から 159 科目の回答を得て、部会内に情報共有した。	【評価値】 S 【理由】 ・先進的なプラットフォームを調査し、その内容を部会内で共有するとともに、第二期中長期計画の策定において、共同事務局、分科会などの組織改革の着想を得た。 ・科目等履修・単位互換科目調査を実施し、3 大学から 159 科目の情報を得るとともに、他の取組だが西部地区五大学連携による共同科目の情報も得られ、第二期中長期計画における福岡未来創造プログラムとの連携を検討するための好材料が得られた。

地元就職・定着作業部会							
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇福岡都市圏の大学生が地域企業に対して理解を深め、福岡で働くこと・暮らすことへの関心を高めるための企画や事業等を大学・自治体・産業界が共同で推進し、若者の地元就職・定着の促進を図る。 ◇起業・創業マインドを持った優秀な若者の輩出と地元定着の促進に向けて、大学生の起業・創業を支援する人材育成プログラムの開発・実施や環境整備等を大学・自治体・産業界が連携協力して推進する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ 13,000 人 ○ インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 2 プログラム以上 ○ 受講者数 延べ 120 人 ○ 起業家の輩出数 10 人	○イベント等への学生等参加者数 延べ 9,493 人 インターンシップ・キャリア教育プログラム等の共同開発数 0 件 ○インターンシップイベント等参加学生数 延べ 8,095 人 ○起業家の輩出数 4 人			○事業(1) 若者の地元就職・定着の促進を図るため、「学生と社会人との交流会」や「オンライン合同会社説明会」を開催し、9,000 人を超える若者達が地元企業との交流を深めた。目標人数には達しなかったが一定の成果はあったと考える。 ○事業(2) 地元企業と若者を繋げるインターンシッププログラムの構築に向けて検討を行ったがコロナ禍の影響もあり断念せざるを得なかった。 代替策として、オンラインモグジョブを開催し、地元企業と若者の交流を図ったが、企業側、学生側双方ともにオンラインモグジョブ事業への参加意欲弱くR4年度を最後に事業を廃止した。 R4年度からは若者と地元企業を繋げる企画として3つのプログラムを新たに実施した。 参加学生も大幅に増加し参加者の満足度も高いものとなった。 ○事業(3) 学生の起業・創業意識の醸成、企業、創業支援を図るため、福岡都市圏大学によるアントレプレナーシップ教育に関する講義を、福岡都市圏大学の学生が自由に受講できるシステムを構築した。 現在は4大学からの科目提供を受け、学生の起業に対する関心を高めることが出来ている。 また、起業支援として「起業塾」や「ビジネスチャレンジNEXT」を開催し、ビジネスの立ち上げ方からプロのメンターによる集中指導を行い、起業への第一歩として貴重な機会を提供することができた。	【評価値】 B 【理由】 総合的に判断すると目標値に対しては未達の点はあるものの、その都度改善、事業の見直しを積極的に行ってきた。 特に事業(2)の中で R5 年度から実施したプログラム「福岡まるごと業界研究」では2年間で 7,000人を超える若者の参加があった。 WG3 はコロナ禍収束後直ちに会議を対面に切り替えて WG メンバーの交流を強化し、協力しながらイベント運営に尽力した。 R5 年度から試行的に始めた「HR 交流会」では、「福岡市には産官学が一体となって若者を支援する楽しい組織体がある。」と福岡未来創造プラットフォームを広く PR できたと思われる。

(1)地元就職・定着に資する事業の共同実施	大学生を対象とした「福岡で働くこと・暮らすこと」を学ぶイベント、地域企業で働く人との交流会、地域企業の説明会等を企画・実施する。	○ イベント等への学生等の参加者数 延べ 13,000 人	○イベント等への学生等の参加人数 延べ 9,493 人	【地元就職・定着に資する事業の共同実施(取組1)】 福岡都市圏の企業と学生等の採用直結型オンライン合同説明会 ○参加者数延べ 1,280 人 (参加者満足度 80%) ○ 出展企業出展率 100% (参加企業満足度 80%)	【地元就職・定着に資する事業の共同実施(取組1)】 福岡都市圏の企業と学生等の採用直結型オンライン合同説明会 ○参加者数延べ 809 人 (参加者満足度 88.1%) ○ 出 展 企 業 出 展 率 100% (参加企業満足度 66.6%)	【地元就職・定着に資する事業の共同実施(取組1)】 ＜R 元年度＞ 学生と社会人との交流会「ジョブカフェ」年間3回開催。(参加学生数:延べ 120 人) ＜R2 年度＞ オンライン合同会社説明会をオンラインにて年間4日開催。(参加学生数:延べ 1,702 人) ＜R3 年度＞ オンライン合同会社説明会を年間8日間開催。(参加学生数:延べ 4,332 人) 加えて学生ニーズの把握を目的として合同企業説明会への申込者へアンケート調査を実施。 ＜R4 年度＞ オンライン合同会社説明会を年間4日間開催。(参加学生数:延べ 1,376 人) 加えて学生ニーズの把握を目的として合同企業説明会への申込者へアンケート調査を実施。 ＜R5 年度＞ オンライン合同会社説明会を年間4日間開催。(参加学生数:延べ 1,154 人) 加えて、参加者アンケートについては、従来の学生対象から参加企業に拡げて実施。 ＜R6 年度＞ オンライン合同会社説明会を年間6日間実施。(参加学生数:延べ 809 人)	【評価値】 C 【理由】 大学生と地域企業で働く人との交流会や大学生に対し地域企業の説明会を開催してきたが、当初の目標人数には届かなかったため。 コロナ禍の影響でオンラインイベント主流となった R3 年度は大幅に参加学生が増加したが、コロナ禍収束後は超売り手市場により会社説明会自体への参加学生が減少していった。 他の会社説明会との差別化を図り、秋以降も就職活動を続ける学生を対象に時期を遅らせての開催も試みたが効果はなかった。
-----------------------	--	----------------------------------	--------------------------------	--	---	--	---

(2)地域企業インターンシップ等の共同実施	若者の地元就職・定着の促進につながる地域企業インターンシップやキャリア教育プログラム等を各種団体への調査結果を踏まえ、開発・実施する。	○ インターンシップ等の開発 2 プログラム以上 ○ 受講者数 延べ 120 人	○インターンシップ等の開発 0件 ○イベント等への学生等参加者数延べ 8,095 人	【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-1)】 (R4 年度をもって事業廃止)	【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-1)】 (R4 年度をもって事業廃止)	【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-1)】 <R 元年度> ・インターンシッププログラムの構築に向けて、参画大学への現状調査及び R2 年度のプログラム策定に着手。 ・インターンシップ推進協議会への現状調査 ・インターンシップ実施企業へのプログラム内容調査 <R2 年度> インターンシッププログラムの構築については、コロナ禍の影響により WG 内での検討に留まり終了。 代替策として、オンラインモグジョブを年間2日間開催。(参加学生数:延べ 15 人(5 大学)) (九州大学、九州産業大学、筑紫女学園大学、福岡大学、福岡工業大学) <R3 年度> オンラインモグジョブを年間9日間開催。 (参加学生数:延べ 39 人(8 大学)) (九州大学、九州産業大学、サイバー大学、西南学院大学、筑紫女学園大学、福岡大学、福岡工業大学、福岡女子大学) <R4 年度> オンラインモグジョブを年間8日間実施 (参加学生数:延べ 19 人(6 大学)) (九州大学、九州産業大学、筑紫女学園大学、福岡大学、福岡工業大学、福岡女子大学) (R4 年度をもって事業廃止)	【評価値】 C 【理由】 当初は若者の地元就職・定着の促進につなげることを目的として地域企業インターンシップに重点を置き内容の検討、プログラム策定を試みたが、コロナ禍の影響により断念した。 インターンシップの代替策として、R2 年度から学生と社会人の交流イベント「オンラインモグジョブ」を実施したが、企業側・学生側双方ともオンラインモグジョブ事業への参加意欲が弱く、事業ニーズが低かったため、主催である福岡商工会議所において令和 4 年度をもって事業を廃止したため。
				【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-2)】 ①福岡まるごと業界研究 ・参加学生数:延べ 1000 人／参加者満足度:80% ・人生の選択肢が増えた学生の割合:90% ②キャリアアドバイス座談会 ・参加学生数:延べ 40 人／参加者満足度:90% ③HR 交流会 ・参加教職員数:1回あたり 20 人／参加企業数:1回あたり20 社 ・次回も参加したい参加者・参加企業の割合:各 80%以上	【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-2)】 ①福岡まるごと業界研究 ・参加学生数:延べ 5,686 人 ・参加者満足度:92% ・人生の選択肢:89% ②キャリアアドバイス座談会 ・参加学生数:延べ 26 人 ・参加者満足度:96% ③HR 交流会 ・参加教職員数:12 人／回 ・参加企業数:19 社／回、次回参加希望 98%	【地域企業インターンシップ等の共同実施(取組 2-2)】 (R4 年度から新たに実施) <R4 年度> ○「FUKUOKA CAREER EXPO2022」を年間2日間開催。(参加学生数:延べ 178 人) ○「地方創生の仕事！福岡オンライン業界研究」 ・オンライン業界研究・選考対策講座を年間4日間開催(参加学生数:延べ 143 人) ・福岡キャリアアドバイス座談会を年間2日間開催(参加学生数:延べ 19 人) <R5 年度> ○「福岡まるごと業界研究」を年間 5 日間開催(参加学生数:延べ 1,867 人) ○「福岡キャリアアドバイス座談会(対面)」を年間4日間開催(参加学生数:延べ 30 人) ○HR 交流会(対面)を試行的に年 1 日間開催(参加者教(産学官関係者):49 人) <R6 年度> ○「福岡まるごと業界研究」を年間 11 日間開催(参加学生数:延べ 5,686 人)	【評価値】 S 【理由】 実施した3プログラムについては、参加学生数および参加満足度ともに目標を大きく上回っていることから、目標以上の成果を上げていると十分評価できる。 また、R5 年度から試行的に始めた「HR 交流会」については、2 年間で約 100 人の産官学の関係者が参加した。 企業の満足度も高く、次回参加の希望も多い。 福岡市の産官学が一体となって学生の就職支援に向けた人的交流を深めることができ、プラットフォームならではのイベントとなっている。

						○「福岡キャリアアドバイス座談会」を年間4回開催 (参加学生数:延べ 26 人) ○「HR 交流会」を年間2日間開催 (参加教職員数:延べ 24 人)	
--	--	--	--	--	--	--	--

小

(3)起業・創業人材の育成支援及び環境整備	各大学へアントレプレナーシップ教育の状況調査をおこない、その結果を踏まえ、学生の起業・創業に向けた支援及び環境整備を企画・実施する。	○ 起業家の輩出数 10 人	○企業家の輩出数 累計4人	【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-1）】 ○ 起業家の輩出数 3 人 (取組 3 全体で令和 6 年度までに 10 人輩出)	【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-1）】 ○0 人	【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-1）】 <R 元年度> ○R2 年度以降の「大学間創業連携のあり方」の策定を目的として各大学への事前アンケート及びヒアリングを実施。 <R2 年度> ○「大学間創業連携のあり方」の策定に向けた調査、検討。 <R3 年度> ○「Fukuoka School of Entrepreneurship」事業 ・学生向けアントレプレナーシップ科目 5 講義を実施 (受講学生数:延べ 123 人) ・教員向けアントレプレナーシップ科目 3 講義を実施 (受講教員数:22 人) <R4 年度> ○「Fukuoka School of Entrepreneurship」事業 ・学生向けアントレプレナーシップ科目 7 講義を実施 (受講学生数:延べ 115 人) ・教員向けアントレプレナーシップ科目 1 講義を実施 (受講教員数:35 人) <R5 年度> ○「Fukuoka School of Entrepreneurship」事業 ・アントレプレナーシップ科目 13 講義を実施 (受講学生数:延べ 606 人) ・FSE 実行委員会を年間 8 日間開催。 <R6 年度> ○「Fukuoka School of Entrepreneurship」事業 ・アントレプレナーシップ科目 16 講義を実施 (受講学生数：延べ 543 人) ・FSE 実行委員会を年間 4 日間開催	【評価値】 B 【理由】 2 年間の調査、検討を重ね、福岡都市圏大学による大学横断型のアントレプレナーシップ教育共通プラットフォームを構築した。福岡都市圏の大学が開講するアントレプレナーシップ教育に関する講義を福岡都市圏大学の学生が自由に受講できるシステムであり、年々提供科目数も増え、最終年度は 4 大学（九州大学、福岡大学、西南学院大学、日本経済大学）からの科目提供を受け、学生の起業に対する関心を高めることが出来た。 しかしながら起業家の輩出には至らなかった。
				【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-2）】 ○ 起業家の輩出数 3 人 (取組 3 全体で令和 6 年度までに 10 人輩出)	【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-2）】 ○0 人 (R1～R5:累計 4 人)	【起業・創業人材の育成支援及び環境整備（取組 3-2）】 <R 元年度> ○「ビジネスチャレンジ」事業 ・採択された7チームが 7 月から1月まで活動 <R2年度> ○「起業塾キックオフセミナー」をオンラインで開催 (参加学生数:74 人) ○「起業塾」(オンライン)の開講 (参加学生数:22 人(6 チーム)) (九州大学 3 チーム、福岡大学 3 チーム) <R3 年度> ○「起業塾」事業 ・ビジネス体験プログラム「THE FIRST STEP～ここから、はじめる。」(オンライン)を年間 2 日間実施。 (セミナー、ワークショップ参加学生数:10 人 6 大学) (※上記の他、セミナーのみ参加学生数:15 人 7 大学)	【評価値】 B 【理由】 「起業塾」や起業支援プログラム「ビジネスチャレンジ NEXT」を開催し、ビジネスの立ち上げ方からプロのメンターによる集中指導、実際のビジネス活動までの体系的なプログラムにより、起業への第一歩として貴重な機会を提供することができた。 R2 年度実施の「起業塾」受講生から 4 名の起業家を輩出したが、その後は輩出には至らなかった。

						<R4 年度> ○起業支援プログラム「ビジネスチャレンジ NEXT」を実施。 ・キックオフイベント(参加学生数:19 人 4 大学) ・ビジネスプラン 審査会(エントリー10 チーム中、6 チームを採択) ・最終的に 4 チームが活動継続 <R5 年度> ○起業支援プログラム「ビジネスチャレンジ NEXT」を実施。 ・キックオフイベント(参加学生数:11 人 4 大学) ・ビジネスプラン 審査会(エントリー10 チーム中、5 チームを採択) ・ビジネスプラン中間発表会 ・ビジネスプラン最終発表会(5 チームが発表) <R6 年度> ○起業支援プログラム「ビジネスチャレンジ NEXT」を実施。 ・キックオフイベント(参加学生数:20 人 5 大学) ・ビジネスプラン 審査会(エントリー6 チーム中、6 チームを採択) ・ビジネスプラン中間発表会 ・ビジネスプラン最終発表会(6 チームが発表)	
--	--	--	--	--	--	---	--

生涯学習作業部会							
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況	評価値とその理由
<全体>	◇多様な人びとが豊かな学びを通して社会の中で活躍できるダイバーシティ社会の実現に向けて、プラットフォームに参画する大学・自治体・産業界が一体となり、子どもから社会人、高齢者に至るまで、地域の多様な人びとの主体的な学びと成長、社会での活躍を促す学習環境の提供・充実を推進する。	○ 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 5 プログラム以上 ○ 受講者数 延べ 1,000 人 ○ プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を効果的・効率的に発信する仕組の整備 2023 年度完了	○ 生涯学習・リカレント教育プログラムの共同開発数 8 プログラム ○ 受講者数 延べ 1,914 人 ○ プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を効果的・効率的に発信する仕組の整備 2023 年度完了			- 事業(1)のとおり、産学官が連携し、生涯学習・リカレント教育プログラムを 8 プログラム共同開発した。また、内容としても、子どもから社会人、高齢者までを対象としたプログラムを開発し、幅広い世代に対して学習環境を提供した。延べ受講者数は 1,900 人を超え、開発数、受講者数ともに中期計画を達成した。 - 事業(2)のとおり、2021 年以前はリカレントカフェの実施、2021 年以降はアラカンフェスタでのセミナーやブース出展を続け、プラットフォーム参画大学の生涯学習プログラムの情報や魅力等を発信することはできたが、効果的・効率的な方法であったかどうかまでは検証できておらず、次期の課題である。また、生涯学習環境の充実に繋がる、アンケートやヒアリング等のニーズ調査についても、十分にできておらず、この点も次期の課題である。 - 次期に向けて、生涯学習に関する事業は、体制が変わり、産学官民交流分科会での実施が予定されている。生涯学習・リカレント教育プログラムにおいては、6 年間の実施内容を踏まえて、取捨選択し、より効果的なプログラム開発について検討を進める。情報発信の仕組み構築やニーズ調査についても、効率的かつ持続可能な実施体制の上で、進め方を改善していく。	【評価値】 B 【理由】 左記のとおり、事業(1)については、目標以上の成果を上げることができたが、事業(2)については、目標を達成できず、次期に向けては見直して、活動する必要があるため。

(1)生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援の推進	社会人、子ども、女性、高齢者、外国人及び障がい者を初めとした、地域の多様な人びとの社会での活躍や貢献を促す質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムを開発・実施する。	○ 生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援プログラムの開発数 5プログラム以上 ○ 受講者数 延べ 1,000 人	○ 生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援プログラムの開発数 8プログラム ○ 受講者数 延べ 1,914 人	○ 生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援プログラムの開発数 5プログラム ○ 受講者数 延べ 200 人以上	● 生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援プログラムの開発数 3プログラム ● 受講者数 延べ 53 人 ● 障がい学生支援に関する企画検討 参加者数:50 人 ● スタートアップ体験事業 ハッピーキャンプ 受講者数:4 人 ● 西南コミュニティーカレッジとの連携講座 受講者数:33 人 ● 仕事に役立つ行動経済学(ナッジ理論)の基礎セミナー 受講者数:16 人	【生涯学習・リカレント教育及び小中高の教育支援の推進事業】 以下の 8 プログラムを実施。 ①「子どもの貧困を科学する」 実施年度:2019 年～2023 年 延べ受講者数:1,535 人 学習を通して、子どもの貧困に関する活動をしている人、関心のある人のネットワークづくりが目的。 ②「福岡のトップランナーに学ぶ DX 講座～経営直結するデータとヒトの意思決定～」 実施年度:2021 年 延べ受講者数:78 人 (株)グッデイ代表取締役社長柳瀬氏、(株)DX パートナース代表取締役村上氏を講師に、(株)Fusic 取締役副社長をモデレーターにお招きし、オンライン講演会およびパネルディスカッション等を実施した。 ③「福岡キャリア共創ラボ」 実施年度:2021 年～2022 年 延べ受講者数:72 人 高校生のキャリア教育の一環として、大学生との交流の場をつくり、2021 年度は、市内2高校の協力のもと、計 5 回開催した。 ④「明日から活かせるユニバーサルデザインフォントの基礎知識とワークショップ/UD フォントセミナー」 実施年度:2021 年～2022 年 延べ受講者数:130 人 小中高大の教職員を中心に、教育現場に最適なユニバーサルデザインフォントの活用方法について、ワークショップ等を通して、体験するイベントとして実施した。 ⑤「さあ起業を体験しよう ハッピーキャンプ」 実施年度:2023 年～2024 年 延べ受講者数:11 人 10～20 代を対象として、所定のテーマをもとに新たな事業を考え出し、事業プランを磨き上げ、プレゼンまで行うスタートアップの体験イベント。 ⑥「チーム力向上ワークショップ 良好な人間関係が組織のパフォーマンスを最大化する！」 実施年度:2023 年 延べ受講者数:18 人 市内で働く従業員(係長、主任、チーフ、チームリーダー)を対象に心理的安全性を高めるチーム・コミュニケーションを学ぶワークショップを開催。 ⑦「西南コミュニティーカレッジ(西南大公開講座)との連携講座」	【評価値】 S 【理由】 プログラム開発数、受講者数ともに中期計画を達成し、内容としても多様なプログラムを実施することで、充実した学習機会の提供ができたと考えるため。
------------------------------	---	---	---	---	---	--	--

						実施年度:2023～2024 年 延べ受講者数:54 人 西南大公開講座と連携し、PF として公開講座を 実施。 ⑧仕事に役立つ行動経済学(ナッジ理論)の基礎セミ ナー 実施年度:2024 年 延べ受講者数:16 人 マーケティングやコミュニケーションにも使える 行動経済学のセミナーを開催。	
--	--	--	--	--	--	--	--

(2)生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進	福岡都市圏の生涯学習環境の充実に向けて、ニーズや人材の把握、効果的な生涯学習情報の発信等に関する調査・実証実験事業に取り組むとともに、その成果に基づき環境整備を推進する。	○ 調査・実証実験事業の実施件数 3 件以上 ○ アンケートの回収数 1,000 件以上 ○ ヒアリング数 15 件以上 ○ 生涯学習環境の整備 2023 年度までに生涯学習情報発信の仕組整備	○ 調査・実証実験事業の実施件数 3 件 ○ アンケートの回収数 211 件 ○ ヒアリング数 3 件以上 ○ 生涯学習環境の整備 右記記載のとおり、最低限の生涯学習情報発信の仕組整備は構築できた。	○ 調査・実証実験事業の実施件数 2 件 ○ アンケートの回収数 300 件以上 ○ ヒアリング数 3 件以上 ○ 生涯学習情報発信の仕組整備	● 調査・実証実験事業の実施件数 1 件 ● 福岡未来創造プラットフォームのブースを出展。パンフレットや各大学で実施している生涯学習に関するパンフレット・チラシ 500 セットを来場者に広報活動として配布。 ● アンケート回収数 未実施 ● ヒアリング数 未実施	【生涯学習環境の充実に向けた調査・実証実験の展開と整備の推進事業】 ● 調査・実証実験事業の実施件数 3 件 ①リカレントカフェ 実施年度:2019 年～2021 年 延べ受講者数:703 人 社会人の学びのニーズを探るとともに、リカレント教育の普及・推進の担い手発掘及びネットワークづくりを進めることを目的に開催。 ②生涯学習情報発信事業(「福岡 100 大学」講座) 実施年度:2019 年 延べ受講者数:390 人 中心市街地のオープンスペースを活用した生涯学習の共同実施の可能性を探ることを目的に、福岡市役所の 1 階ロビーにて、日替わりで大学教員が公開講座を実施。各大学の生涯学習プログラムを紹介するパンフレットも配架。 ③アラカンフェスタ ブース出展 実施年度:2021 年～2024 年 各大学の生涯学習に関する告知物 延べ配布数:1,710 部 セミナー開催 実施年度:2021 年～2022 年 延べ受講者数:170 人 60 歳前後のアラウンド還暦世代を対象としたイベントにおいて、光薫寺住職の小林信翠氏をお招きし、ミニセミナーを開催した。(2021 年) 福岡大学スポーツ科学部柿本真弓教授が同大市民向け公開講座の健康体操教室を開催した。(2022 年) ● アンケート回収数 2019 年 83 件 2021 年 128 件 実施体制が整備されておらず、それ以外の年については未実施。 ● ヒアリング数 2019 年 3 件 実施体制が整備されておらず、それ以外の年については未実施。	【評価値】 C 【理由】 中期計画では、調査・実証実験事業の実施件数は達成したが、アンケート回収およびヒアリング数については、未達であり、次期の取組では見直しが必要と考えるため。
----------------------------------	---	--	---	---	---	---	---

大学・自治体・産業界交流作業部会							
中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
<全体>	◇PF 参画機関を中核として、福岡都市圏の大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた交流・連携を活性化し、多様な人びとの入り混じりを通して異なる分野を越境し融合する新しい知の創造や人材の成長を促す環境づくりを推進する。 ◇PF 参画機関の経営力の強化(コストの削減、業務の効率化、教育・研究力の向上等)を目的に、知的・人的・物的資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性について調査・検討し、それらを実現するための体制や制度、仕組づくりを推進する。	○ 産官学の組織の垣根を越えた交流者数: 延べ 1,530 人 ○ 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数:20 件 ○ 人事交流の実績件数:7 件 ○ 資源共有化や業務共同化の実現件数:5 件	○ 産官学の組織の垣根を越えた交流者数: 延べ 3,825 人 <内訳> ・(取組 1)交流イベントへの参加者数:延べ 2,177 人 ・(取組 2)研修への参加者数:延べ 425 人 ・(取組 5)支援・認定制度に基づく交流者数:延べ 1,223 人 ○ 交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数:44 件 <内訳> ・(取組 1)交流に基づく新規企画・事業等の提案件数のうちの実現件数:26 件 ・(取組 5)支援件数:18 件 ○ 人事交流の実績件数: 12 件 <内訳> ・(取組 3)人事交流の実績件数:12 件 ○ 資源共有化や業務共同化の実現件数: 12 件 <内訳> ・(取組 4)資源共有化や業務共同化の実現件数:12 件			・ 本 WG の取組を通して、PF 加盟機関を中心とする大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた交流の促進及び連携・協力関係の深化に大きく寄与することができた。 ・ 下記に記載している取組 1～5 の成果のとおり、「福岡の未来の学びの創造」「共同研修」「人事交流」「資源共有化・業務共同化」「共同プロジェクトの支援」に係る取組に対して、加盟機関を中心とする多数の教員や職員、学生等が参加(または参画)し、これまで見られなかったような大学間または産学官民の組織の垣根を越えた交流が大きく進んだ。 ・ これらの交流から生まれた関係性を基盤として、そこからさらに新規の企画・事業等が創出されるなど、福岡都市圏の大学とまちの未来を創造する新しい知とネットワークが育ってきている。また、「対話と交流の場」「共同研修」「人事交流」「共同プロジェクト」等の他大学・他機関の人材との交流の機会 は、PF 加盟機関を中心とする人材の成長にも寄与している。 ・ PF 加盟機関間の資源の共有化や業務の共同化に関しては、その実現に向けた調査および検討を進めることができた。特に「施設・設備の共同利用」に関しては、加盟機関の間で仕組を構築し、実現することができた。ただし、「施設・設備の共同利用」以外の資源共有化や業務共同化の取組を広げていくことは、今後の課題として残された。	【評価値】 A 【理由】 ・ 第 1 期中長期計画における本 WG の 4 つの数値目標のすべてを十分に達成することができた。特に「産官学の組織の垣根を越えた交流者数」「交流・支援に基づく新規企画・事業等の実現件数」「資源共有化や業務共同化の実現件数」の 3 つに関しては、目標の 2 倍以上を達成することができた。 ・ ただし、「人事交流」に関しては、その促進に向けた新しい制度や仕組みの実現まで至らなかったこと、また「資源共有化や業務共同化」に関しては、「施設・設備の共同利用」の取組にとどまり、「共同調達」等の他の取組の実現まで至らなかったこと等を考え、全体の評価を S 評価とはせず、A 評価とした。
(1) 対話と交流の場づくりの推進	大学・自治体・産業界の対話と交流の場を継続的に開催することで、組織の垣根を越えた顔の見える関係性づくりを進めるとともに、福岡の未来創造につながる多様な提案の創出につなげる。	○ 交流イベントへの参加者数:延べ 710 人 ○ 交流に基づく新規企画・事業等の提案件数:16 件(うち 10 件を実現)	○ 交流イベントへの参加者数: 延べ 2,177 人 <内訳> ・令和元年度:延べ 216 人 ・令和 2 年度:延べ 135 人 ・令和 3 年度:延べ 951 人 ・令和 4 年度:延べ 409 人 ・令和 5 年度:延べ 263 人 ・令和 6 年度:延べ 203 人 ○ 交流に基づく新規企画・事業等の提案件数:27 件(うち 26 件を実現) <内訳>	○ 対話と交流の場への参加者数: 延べ 120 人 ○ 新規企画・事業等への提案件数:3 件(うち 3 件を実現)	● 対話と交流の場への参加者数: 延べ 203 人 <内訳> ・福岡まなびラボ及び公開セミナー:184 人 ・ふくおか夜なべ談義～バターナイフから軽やかに思考の旅～: 19 人 ● 対話と交流に基づく新規企画・事業等の提案件数:3 件(うち 3 件を実現) <内訳>	【対話と交流の場づくりの推進事業】 ・ 本事業の推進の中核を担う組織として、福岡都市圏で先進的な教育・人材育成に携わる大学・自治体・産業界等の有志メンバーが定期的に集まり、「福岡の未来の学びの創造」をテーマに対話と実践活動に取り組むキーパーソン交流会「福岡まなびラボ」を 2019 年 12 月に立ち上げ、活動を開始した。 ・ 令和元年の設立から令和 6 年度にかけて福岡まなびラボの定例会(又は公開セミナー)を月 1 回程度のペースで開催した。正規のメンバーとして、大学教職員 4 人、小中高教員 4 人、自治体 3 人、NPO 法人 2 人、企業 8 人、経済団体 7 人が参画し(令和 7 年 3 月末時点)、「福岡の未来の学びの創造」をテーマに対話、学習会、新規企画・事業の構想づくり等に取り組んできた。	【評価値】 S 【理由】 ・ 対話と交流の場への参加者数及び新規企画・事業の提案件数の数値目標を十分に達成することができた。 ・ 特に福岡まなびラボでの対話と関係性づくりの成果を土台に、同メンバーが中心となり「福岡の未来の学びの創造」や「産学官の組織の垣根を越えた対話と交流の促進」に資する 26 件の新規企画・事業を企画・実施し、第 1 期中長期計画の目標を大幅に上回り達成することができた。 ・ 以上により、本 WG のミッションである「福岡都市圏の大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた対話と交流の促進」に大きく寄与

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
			・令和元年度:2 件(うち 1 件を実現) ・令和 2 年度:3 件(うち 3 件を実現) ・令和 3 年度:6 件(うち 6 件を実現) ・令和 4 年度:5 件(うち 5 件を実現) ・令和 5 年度:8 件(うち 8 件を実現) ・令和 6 年度:3 件(うち 3 件を実現)		・ふくおか夜なべ談義～バターナイフから軽やかに思考の旅へ～ ・福岡まなびラボ公開セミナー「福岡女子商、全国最年少校長の挑戦～何を変え、何が変わったのか～」 ・福岡まなびラボ公開イベント「未来ビジョンラボ:生成 AI とレゴで作る 2050 年」	・福岡まなびラボが中心となり産学官民の垣根を越えた対話と交流の場を開催し、延べ 2,177 人が参加した(うち福岡まなびラボ定例会・公開セミナー:848 人、その他主催交流イベント等:1,329 人)。 ・これら福岡まなびラボでの対話と交流から、下記の 27 件の新規企画・事業の提案が生まれ、うち 26 件が実現した。全ての企画・事業において、福岡まなびラボのメンバーが講師・ファシリテーター・イベント運営等の実施レベルで、参加・支援を行った。 ※下記の企画・事業のうち下線を付したものは、本 WG の「対話と交流の場づくりの推進」事業の一環として実施したため、その参加者は「対話と交流の場への参加者数」としてカウントしている。 《令和元年度》 ①福岡市科学館と連携した中高生の育成プログラム「未来教室」(生涯学習 WG に提案⇒令和 2 年度に実施) ②SDGs をテーマにした大学生向けの教育プログラム(地域人材育成 WG に提案⇒実現せず) 《令和 2 年度》 ③「ふくおかキャリア共創ラボ」(生涯学習 WG に提案⇒令和 3 年度・4 年度に実施) ④「対話とファシリテーション研修」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑤「ふくおか対話と学びの学園祭」(本 WG に提案⇒令和 3 年度・4 年度に実施) 《令和 3 年度》 ⑥リカレントカフェ「これからの学びはどうなっていく?」(生涯学習 WG に提案⇒同年度に実施) ⑦リカレントカフェ「ふくおか対話と学び学園祭、はじまるよ」(生涯学習 WG に提案⇒同年度に実施) ⑧「対話型イベントのつくり方講座」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑨ふくおか対話と学び学園祭オープニングイベント「まだ知らない関係の紡ぎかた、今日ここから」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑩ふくおか対話と学び学園祭クロージングイベント「多様な価値観から見つめる自分、今日このまちで」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑪「大学生が求める学びの対話会」(地域人材育成 WG に提案⇒同年度に実施) 《令和 4 年度》 ⑫共同研修「対話の場づくり講座」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑬ふくおか対話と学び学園祭オープニングイベント「新たなワクワクを見つける学びの旅」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑭ふくおか対話と学び学園祭クロージングイベント「いい関係を築くコミュニケーションとは?」(本 WG に提案⇒同年度に実施) ⑮共同研修「大学って何するところ?」(本 WG に提案⇒同年度に実施)	し、前進させることができた。

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
						⑯福岡まなびラボ公開セミナー「白熱！未来創造教室」（本 WG に提案⇒同年度に実施） 《令和 5 年度》 ⑰福岡まなびラボ公開セミナー「白熱！未来創造教室（続）」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ⑱福岡工業大学との連携企画「白熱！未来創造教室 in 福工大」（地域人材育成 WG に提案⇒同年度に実施） ⑲福岡テンジン大学と福岡地域戦略推進協議会との連携企画「ふくおか未来会議」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ⑳福岡まなびラボ公開セミナー「2050 年の未来を旅するワークショップ」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉑共同研修「日本の教育の現在地とこれから」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉒福岡市との連携企画「大学生みんなで考えよう！福岡のまちの未来のつくり方」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉓福岡まなびラボ公開セミナー「教育メディアコミュニティという挑戦」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉔福岡まなびラボ公開セミナー「多様性がもたらす学びの進化とは」（本 WG に提案⇒同年度に実施） 《令和 6 年度》 ㉕「ふくおか夜なべ談義～バターナイフから軽やかに思考の旅へ～」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉖福岡まなびラボ公開セミナー「福岡女子商、全国最年少校長の挑戦～何を変え、何が変わったのか～」（本 WG に提案⇒同年度に実施） ㉗福岡まなびラボ公開イベント「未来ビジョンラボ～生成 AI とレゴで作る 2050 年～」（本 WG に提案⇒同年度に実施）	
(2) 共同研修事業の推進	参画機関の人材の資質向上及び交流の促進を目的に、効果的な研修プログラムを開発・実施する。加えて、各機関の既存研修プログラムを他機関の職員等も受講できる仕組みづくりを進める。	○ 研修の共同実施件数:14 件 (PF 主催:8 件、既存開放:6 件) ○ 研修への参加者数:延べ 320 人 (PF 主催:延べ 260 人、既存開放:延べ 60 人)	○ 研修の共同実施件数:16 件 (PF 主催:11 件、既存開放:5 件) ＜内訳:PF 主催＞ ・令和元年度:－ ・令和 2 年度:2 件 ・令和 3 年度:2 件 ・令和 4 年度:3 件 ・令和 5 年度:3 件 ・令和 6 年度:1 件 ＜内訳:既存開放＞ ・令和元年度:－ ・令和 2 年度:－ ・令和 3 年度:－ ・令和 4 年度:1 件 ・令和 5 年度:2 件 ・令和 6 年度:2 件	○ 研修の共同実施件数:5 件 (PF 主催:2 回、既存開放:3 回) ○ 研修への参加者数:延べ 90 人 (PF 主催:延べ 60 人、既存開放:延べ 30 人)	● 研修の共同実施件数:3 件 (PF 主催:1 件、既存開放:2 件) ● 研修への参加者数:延べ 53 人 (PF 主催:38 人、既存開放:15 人) ＜内訳:PF 主催＞ ・令和 6 年度私立大学等経常費補助金に関する SD 研修・各大学の事例報告会:38 人 ＜内訳:既存開放＞ ・第 36 回 FD Café「学生指導に必要なコーチング技能」（福岡工業大	【共同研修事業の推進事業】 ・令和元年度に、共同研修の企画及び仕組みづくりに向けた情報収集を目的に、全加盟機関を対象に、研修の開講状況及びニーズに関する調査を実施した。 ・令和 2 年度から令和 6 年度の間に、PF 加盟機関の人材の資質向上及び交流の促進を目的に、PF 主催の共同研修(11 件)を企画・実施し、延べ 380 人が参加した。すべての研修において、90%以上の参加者から「とても良かった・とても参考になった」との回答をいただいた。 ＜PF 主催＞ 《令和 2 年度》 ①「大学事務職員による SD 研修会」:37 人参加 ②「対話とファシリテーション研修～アイデアを引き出し、当事者意識をつくる～」:28 人参加 《令和 3 年度》 ③「ICT を用いた同時双方向型の遠隔授業に関する SD 研修」:58 人参加 ④「対話型イベントのつくり方講座」:18 人参加	【評価値】 A 【理由】 ・ PF 主催研修に関しては、実施件数・参加者数ともに目標を上回り、達成することができた。研修はいずれも受講者の満足度が高く、PF の強みを生かした質の高い研修を企画することができた。また、これらの研修を通して、PF 加盟機関間の組織の垣根を越えた参加者同士の交流の促進にもつながった。 ・ PF 加盟機関で実施されている既存の研修の開放については、実施件数・参加者数ともに目標値にわずかに届かなかったものの、PF 主催研修と合わせた全体の実施件数及び参加者数は目標を上回ったため、総合的に見て A 評価とした。

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
			○ 研修への参加者数：延べ 425 人 (PF 主催:延べ 380 人、既存開放:延べ 45 人) ＜内訳:PF 主催＞ ・令和元年度:－ ・令和 2 年度:延べ 65 人 ・令和 3 年度:延べ 76 人 ・令和 4 年度:延べ 98 人 ・令和 5 年度:延べ 103 人 ・令和 6 年度:延べ 38 人 ＜内訳:既存開放＞ ・令和元年度:－ ・令和 2 年度:－ ・令和 3 年度:0 人 ・令和 4 年度:延べ 6 人 (研修全体 延べ 17 人) ・令和 5 年度:延べ 24 人 (研修全体 延べ 151 人) ・令和 6 年度:延べ 15 人 (研修全体 延べ 121 人)		学):4 人(研修全体 31 人) ・令和 6 年度第 2 回「福岡大学障がい学生支援セミナー」(福岡大学):11 人(研修全体 90 人)	《令和 4 年度》 ⑤「対話型イベントのつくり方講座」:33 人参加 ⑥「対話の場づくり講座」:33 人参加 ⑦「大学って何するところ? ～大学と学びの未来のカタチについて考えよう～」:32 人参加 《令和 5 年度》 ⑧「私立大学等経常費補助金に関する SD 研修・各大学の事例報告会」:29 人参加 ⑨「ポートフォリオを活用した学生・教員における授業 PDCA の取り組み」:25 人参加 ⑩「日本の教育の現在地とこれから」:49 人参加 《令和 6 年度》 ⑪「令和 6 年度私立大学等経常費補助金に関する SD 研修・各大学の事例報告会」:38 人参加 ・ 令和 3 年度から令和 6 年度の間に、各 PF 加盟機関で実施されている既存の研修のうち、下記の研修(5 件)は PF の他の加盟機関にも開放して実施し、他機関の職員・教員延べ 45 人が参加した。 ＜既存研修の開放＞ 《令和 4 年度》 ①第 25 回 FD Café「学生主体の授業デザインと運営手法ワークショップ」(福岡工業大学):6 人参加 (研修全体 17 人参加) 《令和 5 年度》 ②第 28 回 FD Café「大学教育 DX の現状と今後の展望」(福岡工業大学):13 人参加 (研修全体 82 人参加) ③第 32 回 FD Café「DX 推進・デジタル人材育成の政策動向及び企業 DX 事例について」(福岡工業大学):11 人参加 (研修全体 69 人参加) 《令和 6 年度》 ④第 36 回 FD Café「学生指導に必要なコーチング技能」(福岡工業大学):4 人参加 (研修全体 31 人参加) ⑤令和 6 年度第 2 回「福岡大学障がい学生支援セミナー」(福岡大学):11 人参加 (研修全体 90 人参加)	
(3) 人事交流の促進	PF 参画機関の人材の育成及び組織の活性化を目的に、人事交流(発令を伴わないものも含む)に関する調査・検討を進め、実現のための制度や仕組づくりの調整、機関間のマッチング、及び実施結果の検証等に取り組む。	○ 人 事 交 流 の 実 績 件 数:7 件	○ 人事交流の実績件数:12 件 ・既存の制度による人事交流:12 件 ＜内訳＞ ・令和元年度:1 件 ・令和 2 年度:1 件 ・令和 3 年度:1 件 ・令和 4 年度:3 件 ・令和 5 年度:4 件 ・令和 6 年度:2 件 ・新たな制度・仕組による人事交流:0 件	○ 人事交流の実績件数:2 件 ※発令の有無を問わない	● 既存の制度による人事交流:2 件 ＜内訳＞ ・福岡市→九州大学 ・純真学園大学→福岡大学 ● 新たな制度・仕組による人事交流:0 件	【人事交流の促進事業】 ・ 令和 2 年度に PF 加盟機関を対象に「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査」を実施し、各機関の人事交流に関するニーズや課題等の把握に取り組んだ。回答内容の調査・分析に基づいて企画提案書「人事交流の促進に向けた調査検討報告」を作成し、運営委員会にて報告を行った。令和 3 年度に、アンケート調査結果の分析・検討、全国の取組事例の調査、PF 加盟大学の人事部等へのヒアリング調査(3 機関)に取り組んだ。これらの調査・分析をもとに、人事交流の実現・促進に向けた企画提案書を作成し、運営委員会にて報告を行った。 ・ 令和 4 年度から同提案書をもとに、①短期交流の企画の整備・充実化を進める、②各加盟機関がど	【評価値】 B 【理由】 ・ PF 加盟機関間の人事交流の実績件数(発令を伴う)に関しては、目標を上回り達成することができた。 ・ ただし、人事交流の促進に向けた新たな制度・仕組みについては、調査・検討にとどまり実現まで至らなかったため、B 評価とした。

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
						のような人事交流を希望しているか(短期・中期・長期含めてどのような受入・送出を望んでいるもしくは対応可能か)の「見える化」に取り組む、の 2 つの方向性を定めて人事交流の促進に向けた新たな制度・仕組みの検討を開始した。令和 6 年度まで新たな制度・仕組みの構築の可能性を探っていたが、WG の他の取組や、PF 全体の次期計画策定に時間が取られたこともあり、実現に至らなかった。 - 令和元年度から令和 6 年度の間、PF 加盟機関(当時含む)の間で既存の制度による人事交流を 12 件実施した。 <内訳> - 令和元年度：①福岡市→九州大学 - 令和 2 年度：②福岡市→九州大学 - 令和 3 年度：③福岡市→九州大学 - 令和 4 年度：④福岡市→九州大学 ⑤福岡国際医療福祉大学→福岡大学 ⑥九州大学→福岡女子大学 - 令和 5 年度：⑦福岡市→九州大学 ⑧福岡国際医療福祉大学→福岡大学 ⑨純真学園大学→福岡大学 ⑩九州大学→福岡女子大学 - 令和 6 年度：⑪福岡市→九州大学 ⑫純真学園大学→福岡大学	
(4) 資源の共有化や業務の共同化の検討及び実現	PF 参画機関間において、資源の共有化や業務の共同化の様々な可能性(備品・設備等の共同調達、施設・設備等の共同利用、業務システムの共同開発、クロスポイントメント制度の実施、事務の共同運営等)について調査・検討し、実現のための組織体制の構築や制度の整備、機関間の調整等に取り組む。	○ 資源共有化や業務共同化の実現件数：5 件 ○ 実施体制の構築：令和 2(2020)年度(調整組織の設置)	○ 資源共有化や業務共同化の実現件数：12 件 <内訳:共同利用> ・令和元年度:ー ・令和 2 年度:コロナ禍で休止 ・令和 3 年度:10 件 ・令和 4 年度:0 件 ・令和 5 年度:1 件 ・令和 6 年度:1 件 ○ 実施体制の構築:令和 2(2020)年度→プロジェクトチーム設置	○ 資源共有化・業務共同化の実現件数：2 件 ※令和 6(2024)年度に実施決定した件数	● 資源共有化・業務共同化の実現件数：1 件 <内訳> 施設・設備の共同利用：1 件(西南学院大学「西南コミュニティーセンター」)	【資源の共有化や業務の共同化の検討及び実現事業】 - 令和元年度に、今後 PF において資源の共有化・業務の共同化を進めていくにあたっての推進体制(調整組織の設置)や実施工程等に関する提案書を取りまとめ、運営委員会に提出した。 - 令和 2 年度に、資源の共有化・業務の共同化の可能性について調査・検討し、その実現に向けて企画・制度設計・調整等に取り組むプロジェクトチーム(資源共有チーム)を WG 内に設置した。 - プロジェクトチームでは、①資源の共有化・業務の共同化に関する全国の先進事例の調査に取り組み、チーム内で共有・検討を行った。②これらの事例を参考として、加盟機関のニーズや課題を把握することを目的に「共同調達・共同利用・人事交流に関するアンケート調査」を実施し、調査結果の集計・分析を行った。 - 令和 3 年度以降、同調査の結果に基づき、「施設・設備の共同利用」「共同調達」について、以下の取組を行った。 <施設・設備の共同利用> - 令和 3 年度に全加盟機関を対象に「施設・設備の共同利用に関する調査」を実施し、4 機関の 10 施設・設備について共同利用が実現した。これらの施設について、代表者会議にて報告・共有を行った。 →①筑紫女学園大学:教室等 福岡工業大学:②エレクトロニクス研究所計測センター	【評価値】 A 【理由】 - 資源共有化や業務共同化の実現件数に関しては、目標を大幅に上回り達成することができた。 - ただし、「施設・設備の共同利用」の実現にとどまり、「共同調達」等の他の取組の実現まで至らなかったため、S 評価とはせず A 評価とした。

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
						③モノづくりセンター ④A・B・C・D 棟 ⑤FIT アリーナ ⑥FIT ホール ⑦FIT BBQ ⑧FIT セミナーハウス ⑨福岡大学:地域交流サロン ⑩福岡商工会議所:貸会議室 - 令和 4 年度に、調査結果をもとに共同利用が可能な施設・設備一覧をまとめ、加盟機関に情報を共有し、PF ウェブサイトにて情報を公開した。 - 令和 5 年度に、第 2 回目の調査を実施し、新たに 1 施設の共同利用が実現した。共同利用が可能な施設・設備一覧および PF ウェブサイトの情報を更新し、加盟機関に共有した。 →⑪西南学院大学:西南学院百年館 - 令和 6 年度に、第 3 回目の調査を実施し、新たに 1 施設の共同利用が実現した。共同利用が可能な施設・設備一覧および PF ウェブサイトの情報を更新し、加盟機関に共有した。 →⑫西南学院大学:西南コミュニティーセンター - 共同利用の実現後は、各提供機関が期待する利用の仕方や実績を作っていくための取組や仕組みづくりが今後の課題として挙げられた。 <共同調達> - 令和 3 年度に、全加盟機関を対象に「共同調達に関するアンケート調査」を実施したところ、7 割以上の機関から前向きな回答があった。 - 令和 4 年度に、追加調査を行ったところ、7 大学(九州産業大学、九州大学、筑紫女学園大学、福岡工業大学、福岡歯科大学、福岡女子大学、福岡大学)から「参加を検討したい」との回答があった。 - 令和 5 年度に、同調査の中で特にニーズが高かった品目である「PPC 用紙、トイレトペーパー、重油」について、個別に調達した場合と共同で調達した場合の見積を取り、各品目の市場調査を実施した。 - 令和 5 年度に、市場調査の結果をもとに、「参加を検討したい」との回答があった 7 大学に対して共同調達への参加に関する意向調査を実施した。その結果、納品場所や回数等の条件が合わない、共同調達の見積価格が現在の調達価格より安価ではない等の理由で、共同調達を実施できる品目はなかった。 - 今後、物価や燃料費の変動等をみつつ、調達価格を下げるための方法や条件を検討するとともに、物品以外の各種サービスや業務システム等にも視野を広げて、共同調達の実現の可能性を模索していく。	
(5) 組織の垣根を越えた交流を促進する支援制度の運用	PF 内の組織の垣根を越えた交流の促進に資する自主的な企画や事業(課題解決型プロジェクト、学習会、各種イベント等)を資金面・広報面から支援するための制度を整備し、運用する。	○ 支援件数:10 件 ○ 認定件数:5 件 ○ 支援・認定制度に基づく交流者数:延べ 500 人	○ 支援件数(助成型):18 件 <内訳> ・令和元年度:募集要項の内容検討 ・令和 2 年度:コロナ禍で休止 ・令和 3 年度:4 件 ・令和 4 年度:3 件	○ 支援件数(助成型):4 件 ○ 認定件数(認定型):2 件 ○ 支援・認定制度に基づく交流者数:延べ 200 人	● 支援件数(助成型):6 件 <内訳> ・新規採択:2 件 ①福岡サロン〜科学と芸術が会う場〜(交流者数:65 人) ②福岡からみる日本	【組織の垣根を越えた交流を促進する支援制度の運用事業】 令和 2 年度に、支援・認定制度の開始に向けて、WG 内にプロジェクトチーム(自主活動認定・支援チーム)を設置した。令和 3 年度から、支援・認定制度「福岡よか未来プロジェクト」の運用を開始することとし、支援・認定制度の設計、公募要領の整備等に取り組んだ。	【評価値】 A 【理由】 「助成型」については、支援件数・交流者数ともに目標を上回り達成することができた。採択されたプロジェクトは、いずれも PF 加盟大学・中高教員・NPO・企業・地域住民などの多様な主体がプロジェクトメンバーとし

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
			・令和 5 年度：5 件 ・令和 6 年度：6 件 ○ 認定件数(認定型)：0 件 <内訳> ・令和元年度：募集要項の内容検討 ・令和 2 年度：コロナ禍で休止 ・令和 3 年度：0 件 ・令和 4 年度：0 件 ・令和 5 年度：0 件 ・令和 6 年度：0 件 ○ 支援・認定制度に基づく交流者数：延べ 1,223 人 <内訳> ・令和元年度：募集要項の内容検討 ・令和 2 年度：コロナ禍で休止 ・令和 3 年度：延べ 271 人 ・令和 4 年度：延べ 192 人 ・令和 5 年度：延べ 187 人 ・令和 6 年度：延べ 573 人		とカリブ（交流者数：30 人） ・継続採択：4 件 ③美華音・Mihane- 「振袖を諦めない選択を」（交流者数：32 人） ④市民による探究の場作り（交流者数：288 人） ⑤レベル別日本語読み物の普及と活用促進を目指した読書会の開催（交流者数：45 人） ⑥ふくおか国際映画祭 With Everyone（交流者数：113 人） ● 認定件数(認定型)：0 件 ● 支援・認定制度に基づく交流者数：延べ 573 人	・令和 3 年度から、PF が資金面・広報面から活動を支援する「助成型プロジェクト」、広報支援を行う「認定型プロジェクト」の 2 種類の募集を開始した。 <助成型> ・令和 5 年度に、プロジェクトの認知度向上や応募数の増加を目的として、応募要件を見直した。 →加盟機関の教職員だけではなく学生も申請代表者となれる、活動資金の助成額を増額する、採択予定件数を増やす ・令和 3 年度から令和 6 年度の間に、助成型プロジェクト 18 件が採択された。 《令和 3 年度》 ①市民研究員・まちかどラボ&ライブラリー 代表者：福岡大学商学部准教授 森田泰暢 氏 日本経済大学経済学部教授 竹川克幸 氏 交流者数：50 人 （九州大学×日本経済大学×福岡大学） ②“樋井川村”の市民普請～できるんだからやっちゃおう地域で小さな公共事業～ 代表者：福岡大学工学部助教 伊豫岡宏樹 氏 交流者数：84 人 （九州産業大学×西南学院大学×福岡大学） ③福岡プラスチックリサイクル先導プロジェクト 代表者：九州大学大学院 芸術工学研究院教授 近藤加代子 氏 交流者数：35 人 （九州大学×福岡大学） ④大学連携による子ども食堂実行プロジェクト 代表者：筑紫女学園大学人間科学部准教授 大西良 氏 交流者数：102 人 （九州産業大学×筑紫女学園大学） 《令和 4 年度》 ⑤福岡中洲コ・クリエイティブ映画祭ー社会包摂映画製作プロジェクトー（新規） 代表：九州大学大学院 芸術工学研究院准教授 高取千佳 氏 交流者数：100 人 （九州産業大学×九州大学×西南学院大学×福岡大学） ⑥“樋井川村”の市民普請～できるんだからやっちゃおう地域で小さな公共事業～（継続） 代表者：福岡大学工学部助教 伊豫岡宏樹 氏 交流者数：52 人 （西南学院大学×福岡大学） ⑦地域資源を結ぶまちなかラボ&ライブラリー（継続） 代表者：福岡大学商学部准教授 森田泰暢 氏 日本経済大学経済学部教授 竹川克幸 氏 交流者数：40 人 （日本経済大学×福岡大学）	て参画し、本 WG がミッションとする「福岡都市圏の大学・自治体・産業界の組織の垣根を越えた対話と交流の促進」に大きく貢献することができた。 ・一方で、「認定型」については、申請様式を変更し、チラシを新たに作成する等、認知度向上に向けて試行を重ねたが、応募に結びつかず、支援件数の目標を達成することができなかった。 ・「認定件数(認定型)」自体は目標に達しなかったものの、「支援件数(助成型)」は認定型の不足分を補いつつそれを上回る件数を達成するとともに、本取組の目的である「交流者数」に関しては目標を大幅に上回り達成することができたことから A 評価とした。

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
						《令和 5 年度》 ⑧福岡の子どものための科学イベントの実施 （新規） 代表：福岡大学理学部教授 林壮一 氏 交流者数：14 人 （西南学院大学×福岡大学） ⑨是枝裕和監督と語る「怪物」と LGBTQ（新規） 代表：九州大学大学院 芸術工学研究院教授 近藤加代子 氏 交流者数：54 人 （九州産業大学×九州大学×西南学院大学） ⑩美華音・Mihane・振袖を諦めない選択を（新規） 代表：西南学院大学学部生 春岡茉奈 氏 交流者数：57 人 （九州大学×西南学院大学×筑紫女学園大学） ⑪レベル別日本語書籍の普及と活用促進を目指した多読会の開催（新規） 代表：九州大学留学生センター准教授 柴田あづさ 氏 交流者数：25 人 （九州大学×福岡女子大学×福岡大学） ⑫まちなかラボ&ライブラリー（継続） 代表：福岡大学商学部准教授 森田泰暢 氏 日本経済大学経済学部教授 竹川克幸 氏 交流者数：37 人 （日本経済大学×福岡大学） 《令和 6 年度》 ⑬福岡サロン～科学と芸術が出会う場～（新規） 代表：九州大学大学院生 工藤聡真 氏 交流者数：65 人 （九州大学×西南学院大学） ⑭福岡からみる日本とカリブ（新規） 代表：福岡大学人文学部講師 鈴木美香 氏 交流者数：30 人 （福岡女子大学×福岡大学） ⑮美華音・Mihane・「振袖を諦めない選択を」（継続） 代表：西南学院大学学部生 春岡茉奈 氏 交流者数：32 人 （西南学院大学×筑紫女学園大学） ⑯市民による探究の場作り（継続） 代表：福岡大学商学部教授 森田泰暢 氏 日本経済大学経済学部教授 竹川克幸 氏 交流者数：288 人 （日本経済大学×福岡大学） ⑰レベル別日本語読み物の普及と活用促進を目指した読書会の開催（継続） 代表：九州大学留学生センター准教授 柴田あづさ 氏 交流者数：45 人	

中長期計画取組名称	中長期計画取組概要	中長期計画達成目標	中期計画実績	令和 6 年度達成目標	令和 6 年度実績	6 か年取組状況 【事業計画名称】	評価値とその理由
						（九州大学×西南学院大学×福岡女子大学×福岡大学） ⑱ふくおか国際映画祭 With Everyone（継続） 代表：九州大学大学院 芸術工学研究院教授 近藤加代子 氏 交流者数:113 人 （九州産業大学×九州大学×西南学院大学） < 認定型 > - 募集開始以降、応募がなかったため、令和 5 年度は「認定型プロジェクト」用のチラシ及び募集要項を作成し、申請書類を簡素化して案内を行ったが、応募に結びつかなかった。 - 令和 6 年度は、申請者からの需要が低いと判断して募集を行わず、PF が公認した事業として様々な応報支援を行う形式に移行することを検討及び提案していくこととなった。	